

珈琲園 花時計（岐阜市）

中心市街地

商店街活性化

取組の背景

柳ヶ瀬の喫茶店「花時計」の店主である土屋さんは、東京で大学を卒業後、飲食店勤めを経て、6年前に東京から岐阜に戻ってきたが、岐阜のまちは以前とは全然違って活気が失われてしまったと感じていた。

一昨年末、「ぎふまちづくりセンター」※が企画した「まちづくり勉強会」への参加をきっかけに、まちづくりへの意識が芽生え、昨年9月、土屋さんの呼びかけにより情報交換会を実施するようになった。

取組の内容

月に1回程度、「花時計」に集まり、お店を閉店した夜8時頃から情報交換会を実施している。

参加メンバーは、柳ヶ瀬、玉宮町、美殿町の若手店主や大学教授、市職員らで、商店街や町といった枠を超え、「岐阜のまち」の活性化に向けて、それぞれの立場から自由に意見を交わしている。

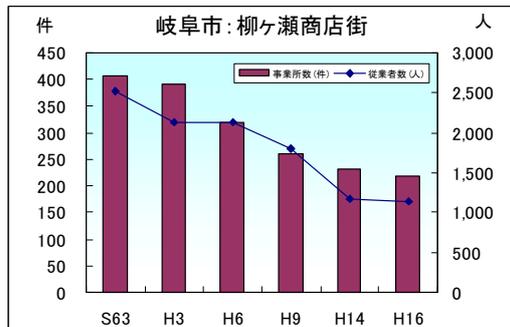
成果

他の商店街の若手店主と、横のつながりが持てるようになった。

それぞれの商店街の現状や商店街活動について情報交換ができるようになり、相互理解が深まった。

各商店街で実施するイベントポスターやチラシの掲示・配布協力や、実際にイベントにも参加するなど、連携できるようになった。

【柳ヶ瀬商店街の事業所数従業員数の推移】



出典：商業統計

※ ぎふまちづくりセンター（岐阜県岐阜市神田町5丁目4）

「住民」「企業」「学識者・専門家」による民間主導型の開放的なまちづくり推進組織で、「行政組織」との協働的関係を保ちながら、持続力のある地域活性化の計画や実行方法を提案する実践的な組織として2001年4月に設立したまちづくり活動支援組織。（岐阜市の中心部である神田町に事務局を設置）

地域に関する調査研究やデータ収集をする「シンクタンク機能」、まちづくりに関する相談や組織づくりをお手伝いする「サポート機能」、学習会や公開セミナーなどを通じて、教育や提言を行う「プレゼンテーション機能」、知的、人的ネットワークの提供を行う「ネットワーク機能」、まちづくりの人材発掘および育成を行う「クリエイティブ機能」などの機能・役割を有し、岐阜圏域のまちづくりに貢献している。



ぎふまちづくりセンター全景

成果の要因

各商店街の若手店主の間に、中心市街地全体で町の活性化していかなければならないという認識があったこと。

今後の課題

- ・各商店街を回遊できるような仕組みづくり。
- ・どの団体も自分たちの商店街の利益を考えてしまい、なかなか中心市街地全体ではまとまらないのが現状。

行政への期待

- ・時代の流れにあった取り組みを期待します（迅速な対応と先見性）。
- ・その分野に携わっている担当者であるはずなのに、現状を把握していないと感じられる。もっと現場に出向いて、現場の人に耳を傾けてほしい。
- ・名古屋の人は「岐阜は遠いところ」というイメージを持っている。名古屋対策として、遠距離のイメージを払拭できるよう「岐阜」をもっとPRしてほしい。

この人にお話をうかがいました！

- ・「珈琲園 花時計」店主 土屋光孝さん

調査日：平成18年11月29日（水）

調査者：岐阜振興局 永田